

福島県の現状と福島大学食農学類生産環境学コースの役割  
Current state in Fukushima Prefecture and Role of Agro-environmental Science  
Course, Faculty of Agricultural and Food Sciences, Fukushima University

○申 文浩\*

Moono SHIN

### 1. はじめに

近年、農林業と農山村を取り巻く情勢は、FTA の進展や TPP への対応、担い手の減少、高齢化の進行、地球温暖化の進行や生物多様性の減退など厳しい状況にある。さらに、福島県をはじめとする東京電力福島第一原子力発電所（以下、「第一原発」という）事故の被災地域においては、農地・森林が放射性物質によって汚染され、作付制限や出荷制限、風評による買い控えなど、かつて経験したことのない深刻な問題が継続している。一方、消費者の「食の安全・安心」や農林水産物の安定供給に対する期待が高まっており、高品質の国内農産物・食品に対する海外需要の拡大にとって、グローバル GAP や HACCP への対応も課題になっている。

### 2. 福島県の現状

東北地方太平洋沖地震によって、福島県内の農地・堤防・排水ポンプ場や水路など約 4,300 箇所被害を受けており、その被害額は農地・農業水利施設のみでも約 2,300 億円にのぼる。震災から 7 年が経過した現在も、避難指示区域の一部では被害調査もできない状況であるが、農業水利施設等の復旧工事が行われており、住宅、農地、森林（生活圏）等の除染作業が進み、平成 30 年 2 月時点で福島県内の国直轄除染対象の進捗率は、約 99.9% に達している。平成 29 年 4 月には、帰還困難区域を除くほとんどの居住制限が解除され（図 1）、住民の帰還も段階的に進められている。今後、避難指示が解除された地域では、本格的な営農再開が行われると思われる。これはこれまで農業農村工学分野の多くの研究者や技術者が福島への復旧・復興のために活躍した結果であるに違いない。

これらの情勢に対応するためには、第一原発事故の被災地域での新たな営農システム及び食産業クラスターの確立、新エネルギーの創造、食の安全性確保、農産物及び農産加工品の輸出振興、その担い手育成など、福島県の復旧・復興にとって必要不可欠であり、日本の農業の発展と食料の安定供給に寄与するものと考えられる。

こうした社会的情勢を変革するためには、「農業の構造改革や農林水産物の高付加価値化、世界的な市場競争力強化に向けて活躍する若い担い手を育成すること」が求められており、これらを実現するため、福島大学に農学系教育研究組織の設置に向けた準備を進めることに至っている。

### 3. 生産環境学コース

福島大学農学群食農学類（仮称）は 4 つの専門コースを設けており（図 2）、学生は 2 年次の後半からコースに属する。農業農村工学の専門科目は、生産環境学コースに配置されており、森林・農地・水環境等の生産資源、ならびに農業土木や農業機械といった生産活動を管理・運用するシステムに関わる科目を通じて、生産環境の保全・活用とこれに付随

\* 福島大学農学系教育研究組織設置準備室

キーワード：食農学類 生産環境学 原発事故 地域貢献



図1 避難指示解除

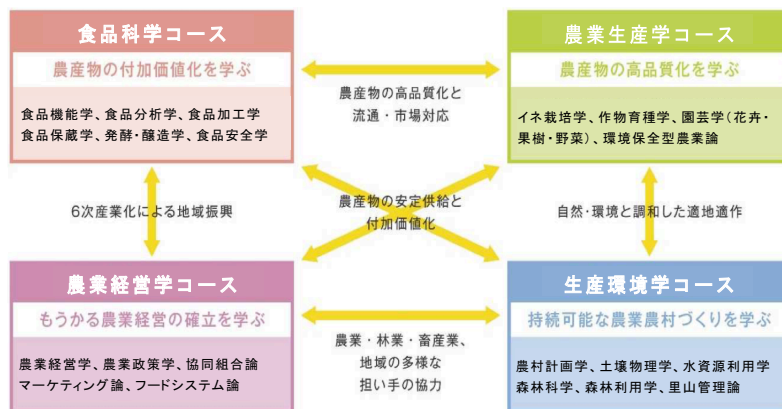


図2 福島大学食農学類（仮称）専門コース

する問題群を解決するための専門知識や技術を修得させる。また、食農学類（仮称）の他コースの科目も履修することで、多角的視野から生産環境を探求し、その保全と活用を実践できる人材育成を目指す。

教育は、農村計画学、土壌物理学、水資源利用学、農業リモートセンシング、スマート農業論を専門とする農業工学分野および、森林科学、森林育成学、森林保護学、森林利用学、里山管理論を専門とする林学分野からなる教員で行う。

本コースは2つの履修モデルを設けており、農村環境モデルでは、工学的手法による農業の生産技術・生産環境の改良や地域環境に関する科目を重点的に履修し、生産活動において、より生産性の高い農業をサポートできる次世代の農村計画、農業水利施設の維持管理、農業機械の知識・技術を修得し、農業を通じて社会貢献、地域活性化を志向する人材を育成する。

森林環境モデルでは、森林の機能、生態、保全、利用、生産活動に関する科目を重点的に履修し、地域資源の利用、環境保全、里山管理等の分野に関する知識、技術を修得し、林業を通じて社会貢献、地域活性化を志向する人材を育成する。

### 3. おわりに

福島大学食農学類（仮称）では、福島県全域を教育のフィールドとして、地方自治体・農業関係機関と密接に連携しながら、教員総員が参加する地域が抱えている課題の解決を目指す農学実践型教育プログラムを実施し、学生は地域に通い課題の発見から解決策までを経験し、専門知識を応用する実践力を身につけ、地域や社会に貢献できる人材育成を行うとともに、福島の課題に学術的視点から新たな取り組みを行い、そこで得られた成果を国内外に還元することを目指している。

こけからの福島大学食農学類（仮称）の新たな挑戦にあたり、農業農村工学会の会員の皆様、関係機関の皆様のご指導、ご支援を頂き、今後の教育・研究に活用させて頂きたい。

#### <参考文献>

- 1) 福島大学 (2018) : 福島大学食農学類（仮称）, <http://www.agri.fukushima-u.ac.jp> (参照 2018.4.12) .
- 2) 福島県 (2018) : 市町村除染地域（汚染状況重点調査地域）における除染実施状況（2018年3月13日更新）, <http://www.pref.fukushima.lg.jp/site/portal/all-201802.html> (参照 2018.4.5) .
- 3) 復興庁 (2018) : 復興の現状と課題, [http://www.reconstruction.go.jp/topics/main-cat1/sub-cat1-1/2018.04\\_genjoutokadai.pdf](http://www.reconstruction.go.jp/topics/main-cat1/sub-cat1-1/2018.04_genjoutokadai.pdf) (参照 2018.4.11) .